



札幌市立幌西小学校地域開放図書館

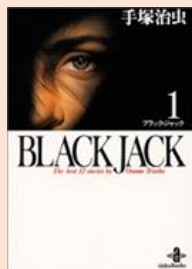
# まほうの図書館だより

No.67

2024年3月12日

まほうの図書館マスコットキャラクター「キラヤン」

「まほうの図書館」では卒業後も貸出券を作ると、1人4冊2週間まで本を借りることができます。(貸出券を作る時は身分証明書を持ってきてください。)  
卒業しても、まほうの図書館へ遊びにきてくださいね！



校長先生

「BLACK JACK」著：手塚治虫

小学生の頃、友達が読んでいたのを見て連れられて買ったのが出会いでした。当時は「マンガなんて…」という雰囲気でしたが、後に教科書で紹介される作品になりました。かつて授業で扱ったこともあります。時々読み返しますが、毎回新たな気付きがあります。



教頭先生

「神去なあな日常」

著：三浦しをん

林業で働く若者が主人公の物語です。クスッと笑える場面がたくさんあります。ちょっと落ち込んだ時に読むと心が晴れます。ぜひ読んでみてください。



よつば学級の担任の先生

「バッテリー」著：あさのあつこ

私が小学6年生の時、校外学習で鑑賞した映画がバッテリーの実写化でした。みんなと映画館でみたことや、同い年の男の子の野球をテーマにした青春ストーリーにすごく感動したことを覚えています。小説も人間関係がリアルに描かれていて中学生になってもおすすめです。



卒業をお祝いして、6年生の担任の先生に「6年生に贈る本」を選んでいただきました。これから中学生になる皆さんにぜひ読んでほしい本です。



6年1組の担任の先生

「星の王子さま」

著：アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ

心に残る言葉がいくつもある作品ですが、私は特に「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは目に見えないんだよ。」という言葉が好きです。“正解”とは、自分自身が経験してきたことでしかはかれないのかもしれません。自分が思うことは本当に正しいだろうか、相手はどうしてそう言うのだろうか、と考えて生きていかなければならない、と感じます。

様々な解釈がある一冊です。5年後、10年後に読んでみるととらえ方が違うかもしれません。ぜひ読んでみてください。



6年2組の担任の先生

「金の角持つ子どもたち」著：藤岡洋子

読み進めるうちに、人の温かさがじんわり感じられる素敵な物語です。



6年3組の担任の先生

「自分の感受性くらい」著：茨木のり子

定期的に読みたくなる詩集です。中でも私が好きな詩は「自分の感受性くらい」という詩です。最後の行の「ばかものよ」という言葉に毎度心を震わせられます。他の詩もたくさんあるのでぜひ手に取って読んでみてください。



6年4組の担任の先生

「てぶくろ」

著：エウゲーニー・M・ラチョフ

この本は私が小学生の時に担任の先生が読み聞かせをしてくれたものです。読んでくれた時の優しい声や温かい表情がとても印象に残っており、今でもこの本を見かけると当時の記憶(小学校の思い出など)がよみがえってきます。

卒業生のみなさんにも「自分にとっての大切な一冊」を見つけてほしいです！そして10年後くらいにもう一度読み返してみたいと思います。

※「神去なあな日常」「バッテリー」「星の王子さま」「てぶくろ」は、図書館にあります。その他の本は、購入を検討しています。